

第8回 新秋葉山塾

西丸先生は探検調査・旅行の際には護身用も兼ねて捕虫網を持参し、世界中の貴重な蝶の標本を「記憶のアルバム」として残しています。その蝶のコレクションの中には、三角紙に保存されたままのものも多数残されています。第8回新秋葉山塾で、それらの展翅作業や、種名の同定をすすめ、2019年度の企画展では新たな標本も加えて「西丸震哉の蝶の世界—記憶のアルバム—」を再度取り上げたいと考えています。

◎開催場所：西丸震哉記念館、秋葉山荘
(宿泊場所：希望者は事前にご相談下さい。)

◎集合日時：11月3日(土) 12時半(西丸震哉記念館集合)

◎作業内容：事前に保湿した三角紙内のアゲハ類・タテハ類などの展翅作業・種同定。

◎展翅対象に取り上げた採集地域：下のコラムは朝日新聞『私の宝物』で探検家西丸震哉氏のものです。採集地として「ニューギニア奥地、ガダルカナル島、奥アマゾンなどが最高に幸せ



1994年7月19日朝日新聞より
だった。」とされています。

そこで、今回はパプア・ニューギニアのトロブリアンド島、ガダルカナル島で採集されたものを主たる対象として、国内採取地は宝島・石

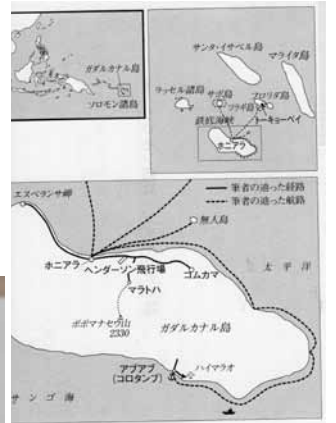
垣島島尻マングローブ(?)のものとししました。
(1) ニューギニア、トロブリアンド島 (1968年6月～11月)

熱帯オセアニアを代表する蝶の一つオオルリアゲハ①やキシタアゲハ②、オオベニキチョウ♀③、ウラナミシロチョウ④、オオウスキマダラ⑤など。



(2) ガダルカナル島 (1978年1月)

記憶のアルバムの標本(西丸震哉記念館2階常設展示)の最高の宝一つビクトリアトリバネアゲハ♀⑥を追加展示することになり、左上隅のチョウ(下の写真)は現在種名が不明。



(3) 宝島ほか (1960年7月頃)

人家の近くの大木のへりをツマベニチョウ⑦がやたらと飛びまわる。この大形のシロチョウは雄大豪壮な飛び方をする。こんな孤島に定住するのは台風の風に運ばれたのだろうが、チョウはその気になると海面から十メートルくらいのところをビュウビュウ次から次へと飛んでいくのを見かける。先に島があるのをどうして知っているのか、徹底して考え抜きたい(西丸震哉の『日本百山』の宝島の項より)。

